

綱領

- 一、我等は同朋相愛の理想に違ひ識見の開發、技術の進歩、徳性の涵養を圖り以て自己の向上と完成を期す。
- 二、我等は労働者の自主的組織と訓練に依り労働條件の維持改善並共同福利の増進を期す。
- 三、我等は國情に立却し、資本主義の根本的改革を圖り以て健全なる新社會の建設を期す。

日本労働總同盟のルネッサンスの詩

- 一、起てよ、日本の労働者！時は水れり、因襲の夢より醒めて、黎明に輝く組合旗の下に起て、資本制の世、打ち破りて、正義と愛の社會をもたらせ、折（あ）く、團結の、威力もて、進め、進め、未來は我等がものぞ
- 二、苦闘茲に卅餘年、起てり總同盟、光輝ある其の歴史、洋々たる其前途、戦士の任また重し、浮萍輕佛の議、打ち斥けて、毅然と歩む、大衆の行く道（折返し）
- 三、見よ、世界に滿ちる、同志の威力を、同じ理想を掲げ、己が持場につき、愛さと喜びを共に分つ、緊き友誼の絆に結ばれて（折返し）

卷頭言

日本の労働組合運動の礎石を築いた總同盟、古くはサンヂカリズム、或る時はコンミニズム、今日はまだワシズム等の思想的激流に襲はれたる日本の労働運動を常に正しき道に導き來つた總同盟、此の輝しき日本労働總同盟も、長い間、全協、中間派、モグリ組合等と玉石混濁視されて來た。

然しながら、國亂れて忠臣出で、家貧にして孝子出ず。の諺の如く、滿洲問題勃發以來、無産階級運動が異常なる多難期に遭遇するや、實質なき組合は雲散霧消し、或は轉向する等の醜態を露呈してゐる中に獨り我が日本労働總同盟のみは愈々益々その光りを増しつゝあるのである。

總同盟ならでは、との聲は労働者階級は勿論、凡ゆる階層を通じて、その進歩分子の中から起つて居り且つこの聲は日一日と廣く深く浸透しつゝあるのである。

恰もよし、此の秋に於て我が大阪聯合會大會は開催されるのである。我等は總同盟の運動方針に一層の確信を深めると共に、これを實踐行動の上に如何に具體化すべきかを本大會に於て慎重審議しなければならぬ。

そして、今日の精神的信頼を、實力的信頼に應へ得るまでに組織を擴大強化する爲めの來るべき一年間の指針としなければならぬ。
金剛石も磨かずんば光無し。

西尾末廣